

Aさんと共に

作業所で働いている30代女性のAさん。お母さんと二人で暮らしていましたが、お母さんが突然他界されてしまいました。Aさんは、お母さんと思いの詰まった場所での生活したいという思いから、自宅で一人暮らしすることを選ばれました。一人で家事をしたことがなかったAさんの想いを叶える為、私たちヘルパーが家事援助をしていくことになりました。



最初は、上手く出来なかった調理ですが、包丁の力の入れ具合や、調味料の「さ・し・す・せ・そ」などを学び、料理の回数を重ねる度にどんどん上達していききました。毎回お弁当に入っている卵焼きは彼女の得意料理となり、今では「買ったお弁当より、手作りのお弁当の方が美味しいんだよ」と言っています。

日常生活の中で、数多くの経験・失敗・成功が繰り返されてきましたが、出来る事が増えていく事が彼女の自信に繋がりました。「もっともっと料理が上手になって、結婚できる」といいなと、彼女の夢はどんどん膨らんでいます。そんな彼女の成長が嬉しく、私の仕事に対する励みにもなっています。

これからも、Aさんやたくさんの方の利用者の方と触れ合いの思いに寄り添いながら、共に成長していきたいと思えます。

ヘルパーステーション 長尾 千恵子

社会福祉法人 平成会
西の池学園

住所 東広島市高屋町小谷 5001-5
TEL (082) 434-0405
FAX (082) 434-5599
メール heiseikai@nishinoike.or.jp
HP <http://www.nishinoike.or.jp/>
編集 西の池学園 広報部
発行者 西の池学園長 赤坂 秀則

第 68 号
(平成 26 年 4 月 1 日)

にしのおいけ



おすすめ商品！！

くるみあんぱん ¥130

絹生食パンのもちもちとした生地の中に、世羅町のおんこ専門店の粒あんをたっぷり入れました。中に入れた「くるみ」との相性も抜群です！

是非ご賞味下さい♪

利用者さんと歩んだ5年間：

利用者Aさんとの出会いは5年前。感情を表情に表すことが少なく、私たちが話し掛けてもあまり反応はありませんでした。食事もあり食べてくれないAさんにどう関わればよいか分からず、不安な気持ちになっていました。でも、コミュニケーションだけは大切にしようと思い、手探り状態ではありましたが話し掛けるようにしました。食事やトイレは時間がかかってしまうAさんですが、その時間には「ご飯おいしいよ」「トイレでおしっこができる」と気持ちいいよ」などと、毎日2人でいろんな話をしています。

そんなある日、いつものようにトイレ介助をしている時、ある変化がありました。普段は視線が散漫していますが、急に真っ直ぐ私の目を見て何かいつもと様子が違うなと感じました。すると、おしっこが終わって驚きました。あまり意思表示をされないAさんが、「トイレ終わつたよ」と私に伝えてくれたのだと気づき、同時に、初めてAさんの気持ちに寄り添うことができた気がして嬉しくなりました。その日から、「Aさんのことをもっと知りたい!!」と思う気持ちが強くなり、Aさんと過ごす時間がさらに楽しくなりました。

出会った頃に比べてAさんの表情は明るくなり、笑顔がたくさん見られるようになりました。また、ご機嫌な時は右手で私の身体や顔など触ったり、食事も美味しそうにたくさん食べたりと、まるで、私たちに心を開いて下さったように感じます。

この5年間、Aさんや利用者皆さんに励まされ、いろんなことを教えてもらいながら成長できたと思います。出会えたことに感謝し、私もこれから出会う人たちに幸せな気持ちをプレゼントできる人でありたいです。

デイセンターこだま 田中 淳子

4月を迎えて

4月、桜が芽吹く時期を迎え、新しい顔ぶれが揃いました。日中活動として通所の事業所へ6名、そして、放課後等児童デイサービス事業所へも数名の子どもさんが加わり活気づいています。職員も新卒者5名が加わりました。それぞれ初々しく新鮮で、春の暖かさの中にも身が引きしまる思いです。

職員は170名を超えるほどになりましたが、最近では、結婚後も仕事を続け、育児で休業した後に職場復帰する女性職員が多くなりました。こうした復帰の循環ができることは、経験もありお互いのことをよく知っているという点で、利用者にとってメリットが大きく、職場の士気にも良い影響を与えてくれます。子育ての大切さを理解し協力し合い、「お互い様」の気持ちで共有できる雰囲気になれば何よりです。人材不足と嘆いて久しい福祉の現場、利用者のためにも、職員にとって魅力のある職場にしたいものです。

昨年度は、「多機能型事業所あさひ」そして「放課後等児童デイサービス事業所夕凧」を開設しました。多くの皆様の協力を頂き何とか軌道に乗りつつあります。今年度は、2カ所のグループホーム整備を計画しています。入所施設に軸足を置いた支援体制から、地域で暮らすための体制へ、徐々にではあります移行しているといった状況です。法人の内外を問わず「連携」をキーワードに、地域で安心して暮らせる体制をバランスよく整え、利用者に寄り添いながら成果を上げたいと思います。

西の池学園長 赤坂秀則



「マックスバリュ西条店」で働く高木さん

(2面に記事)